資料　徳島県立総合教育センター

清水先生御講話（R5.3.27）「教育パラダイムシフト～特別活動の視点から～」

１　特別活動の技術（手法）

○動画視聴「６年生による卒業式の担任へのサプライズ」
「４年生が５年生になった時の移動教室の振り返り」
「５年生が６年生になった時の移動教室の振り返り」より

⇒学年が違っても、別の先生が指導しても、同じように子供たちは育つ。
あの学校だから・・・、あの先生が担任だから・・・ではなく、誰でも子供たちを育てることができる。

○水泳やピアノと同じで特別活動の技術向上には実践あるのみ。
水泳の本を読むだけでなく、実際に泳ぐ練習をすることで上手になる。
有名なピアノのレッスンを受けるだけでなく、ド・レから練習することで、難しい曲も弾くことができるようになる。

２　特別活動は科学

○同じ仕掛け（振り返り）をすれば、誰がやっても同じ結果になる。

○特別活動を効果的使うことによって、教師人生が変わる。
・知ることで、子供たちに温かい言葉をかけることができる。
・働くことが楽しくなる。

３　教育パラダイムシフト

○自分の教育観を変える必要がある。
「教師は子供に教える仕事」⇒「子供に教えない」
「子供を目指す姿に近づける」⇒「自分たちで近づいていく」
※そのために、教えない、指示しない、子供は自分で考える、みんなで考えて気づくことを忘れない。子供が自分で考えて行動することが高い教育効果となる。
※コロナ禍で一斉休校時に、教育系ユーチューバーの動画で勉強した子供の成績が大きく伸びた。学校としての役割をもう一度考える必要がある。

４　日本の学校教育

○教育基本法（第一章　第一条）には「人格の完成」「社会の形成者の育成」と記載。
※つまり、私のよさをどんどん伸ばすとともに私を含めた関係がどんどん広がるように教育を行う。

○学習指導要領（前文）には「豊かな人生を切り拓く人」「持続可能な社会の創り手」と全ての教科において、どのような人間に育てたいか記載。
※言葉が言い換えられているだけで、教育基本法と同じ。

○学習指導要領（第６章　特別活動）に記載のある、「自己実現」「社会参画」「人間関

係形成」の視点を覚えておくとよい。

※「人間関係形成」については他教科・他領域にはない視点であり、特別活動ではベースになる。学級崩壊やいじめ、不登校の予防になるし、保護者からの苦情もなくなる。

5　他教科との往還

○「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」と「学びに向かう力・人間性」で２つに分けると、みえる学力の認知能力【IQ】とみえない学力の非認知能力【EQ】になる。

○認知能力【IQ】と非認知能力【EQ】が相互に影響し合って、ともに伸びる。

○特別活動で特に育成できる力は、「学びに向かう力・人間性」。これは、社会情動的スキルとなる。

6　社会情動的スキル

○目標の達成…意欲・忍耐力・やり抜く力・立ち直る力・創造力・集中力等

⇒成功する人は課題を乗り越える力が強い。これは社会参画の力。

○感情の調節…自尊心・自身・楽観性・道徳心・正義・自主性等

⇒自分を見つめる力であり、自分自身を信じることが不可欠。これは自己実現の力。

○他者との協働…社交性・敬意・思いやり・協調性・信頼・共感力・リーダーシップ・コミュニケーション力等

⇒人とつながる力であり、生活において重要。これは、人間関係形成の力。

7　業界を問わず、成功者に共通のやり抜く力

○子供のときに４本の木があった。今も同じで GRIT と言われている。

①やる気（木）：困難に立ち向かう力（Guts）

②元気（木）：失敗してもあきらめず続ける力（Resilience）

③勇気（木）：自らが目標を定めて取り組む力（Initiative）

④根気（木）：最後までやり抜く力（Tenacity）

8　社会情動的スキルを身に付けるために鍛える資質・能力

○たった２つの力をしっかりと育てることで、社会情動的スキルが身に付く。

①意思決定力…幼稚園でも行っている。自分がどうしたいか、どうしてほしいか決める。

②合意形成力…違う考え方について話し合う中で折り合いをつけて、私の願いからみんなの願いへと変わる。多数決は時に、暴力になる。

9　特別活動の内容

○学級活動、児童会（生徒会）活動、クラブ活動（場合によっては部活動）、学校行事という内容があるが、することは共通している。願いを叶えるために、話し合って意思決定と合意形成をする。そして、みんなで実行して、振り返る。

（Feel ⇒ Imagine ⇒ Do ⇒ Share）

※学校行事は教師の願いからスタートするので、オリエンテーションが大事。

10　FIDS（Feel ⇒ Imagine ⇒ Do ⇒ Share）とは

○ Feel（願い）⇒課題発見（自分事）…教師が仕掛ける。面白そう＋役にたつ＝意欲
※話し合いたいことでなく、やってみたいことや誰かを喜ばせたいことから考える。

○ Imagine ⇒話し合い（みんなで決める）
※計画委員会で決めるイメージをして、出し合う→比べ合う→まとめるで話し合う。比べながらまとめるところが難しいが、とても大切。合意形成につながる。

○ Do ⇒実践（役割分担・協働）
※得意を生かして協力する。認め合う。ちょっと苦しくて楽しいことをすると、互いに支え合うからうまくいく。

○ Share ⇒振り返り（共有）
※目標（願い）を基にして、私や友達の活躍、みんなの成長、次への課題等を言語化して共感できるようにする。

11　特別活動を効果的に行う方法

○異年齢交流活動に力を入れる。６年生が育って、その６年生が他の学年を育てる。
※特別活動が初めての校長先生も簡単に異年齢交流活動を続けることができた。

○異年齢交流活動で情動的スキルを育成する。
①能力の違いを超えて、励まし合いながら一緒に楽しいことを作り出す。
②能力の違いを受けて、それぞれの活躍する場を作り出す
③能力の違いがあるからこそ、憧れと尊敬の気持ちが育つ。
※昔は家庭や地域で異年齢交流活動があったが、今はないので、学校で設ける。

12　清水先生の学校での実践より

○異年齢での話合い活動
→意見の違いに気付き、一人も取り残さないように多数決で決めずに、「納得解」を作る。

○自分たちで決めた集会活動
→みんなで楽しい時間を過ごす協働の体験をする。

○遊び＝主体的・対話的で深い学び＝アクティブラーニング（したいことをする）
→創意工夫してみんなで楽しい時間を過ごす居場所づくりをする。
※遊びは余暇や自由時間ではない。遊びには価値がある。

○尊敬・憧れ・思いやり
→立場が自分の役割になる。自分の可能性に気付く。

○リーダーシップの醸成
→新しい自分との出会いがあり、よさに気付いて、そのよさを伸ばすことができる。

○責任を果たす体験
→自主的・実践的・自発的に行動することで自治的な力がついていく。

○共通の価値づけ、認め合い、相互リスペクト
→互いを知ることによって、自己肯定感の向上や規範意識の醸成につながる。

○学校生活のリノベーション
→よりよい学校の創り手の育成ができ、つながっていく。幼い子も気持ちを感じる。

13　未来に向けて

〇あなたの願う子供の姿はすべて特別活動で育てられる。
〇ワールドカップやＷＢＣも仲間を大切にしている。
〇そうしなきゃダメではなく、願って、ねらって、育てる。

14　質疑応答

Ｑ：特別活動で小中連携では、どのような活動に力を入れるとよいか？
Ａ：同じことをするのが連携ではない。子供や教師の考え方を統一することが大切。
子供たちの自分たちで自分たちの学校をよりよくするという意識をつなげて、子供を信じてチャンスの場を与える。小学校で学んだことを中学校で生かす。

Ｑ：異年齢交流のポイントは？
Ａ：６年生の担任だけに任すのではなく、全ての教師がそれぞれの担当に責任をもつ。
やり方をそろえることや交流する機会を多く設定する。

Ｑ：主体的に行動できる子供とそうでない子供との二極化を解消するには？
Ａ：全ての子供を主体的に行動できるようにするのは難しい。二極化から、主体的に行動できる子供を増やしていく。その後の人生で主体的に行動できるようになるかもしれない。

Ｑ：学級活動の時間（計画・準備等）を確保するには？
Ａ：３５時間は教育課程に位置づけられている。計画委員会をスムーズに運営するには、国立教育政策研究所の動画を一斉に視聴するのも効果的。子供が主体的に活動できるようになれば、設定する必要がなくなる。

Ｑ：中学校の議題はどうしたらよいか？
Ａ：自分の学級という狭い視野から広げていく。学校や地域へと目を向けて議題を設定する。

Ｑ：教師が主導しすぎないようにするにはどうすればよいか？
Ａ：話し合いで忖度するような意見は言わない。司会をサポートするのは必要なことなので、「～したらどうですか？司会さん」とイニシアチブは司会にもたせる。
話し合いは技術なので、始めのうちはどんどん指導する。

Ｑ：特別支援学級在籍の子供の話合い活動への参加はどのようにするか？
Ａ：その子供に応じた活躍の仕方を保証できるようにする。特別支援学級の子供は特別活動では、活躍することが多い。自分の思いをきちんと伝えることができるので、プラスの言葉で励ましていく。人間関係ができると、周りの子供が支えていく。